

## ティーチングポートフォリオ

健康栄養学専攻

鳴原 美智子

### 1 教育の責任

私は家政学部家政学科健康栄養学専攻において、2年生～4年生までの専門科目と栄養教諭に関する科目を以下の一覧表のとおり担当しています。必修科目は管理栄養士として欠くことのできない基本的な科目です。また、栄養教諭を目指す上で必須となる科目もあります。

科目名	開講期	単位数	備考
給食管理学	2年 前期	2単位	必修
給食管理実習Ⅰ	2年 後期	1単位	必修
給食管理実習Ⅱ	2年 後期	1単位	管理栄養士 必修
給食管理臨地実習Ⅰ	3年 通年	1単位	栄養士 必修
給食管理臨地実習Ⅱ	3年 通年	1単位	管理栄養士 選択
給食経営学	4年 前期	2単位	管理栄養士 必修
学校栄養指導論	3年 前期	2単位	栄養教諭 必修
学校食育概論	3年 前期	2単位	栄養教諭 必修
課題研究	3年後期 4年通年	6単位	選択

その他、オムニバス8時間担当。

### 2 教育の理念

私が担当する科目は実務的なものが多く、「健康」の基本である「食」について、理論的にそして実践的に学修させ、管理栄養士の基礎を体得させることを理念としています。また、栄養教諭に関する科目では、栄養教諭に必要な知識・指導の力を身につけさせて、担任と協力して食に関する指導ができるような栄養教諭を目指せるようにしています。

学校や給食センターで勤務してきた実務経験をいかし、集団給食の衛生管理の重要性と献立作成の工夫について、自ら考えそして他者と協力し一つのものを作り上げる喜びを感じることでできる教育を目的としています。

栄養教諭科目では、「生きた教材」である給食の重要性を教授し、児童生徒への指導の大切さと楽しさを実感できるようにすることを目標としています。

### 3 教育の方法

① 「書いて覚える」は、人間の触覚と視覚を使った暗記です。単にスライ

ドを見て教科書にラインを引かせるのではなく、「書く」ことで暗記を効果的にできるようになることから、2年生の時の給食管理学では、スライドを書き写させます。ここで、「書くこと」で、記憶につながることを実感させます。授業の最後には、管理栄養士の国家試験の過去問を1~2問提示し解かせます。ここで、必ず隣の学生と答え合わせを行い、お互いに説明できるようにして、知識の定着を図ります。

- ② 4年生の給食経営学では、アクティブラーニングとしてジグソー法を用いて、積極的に学習者が知識を習得できると考えています。すでに学習方法が確立している4年生にとっては、記憶だけではない知識の習得が必須ですので、コミュニケーションをとることでより深い学びにつながる方法であると考えます。
- ③ 給食臨地実習では、学校での経験をいかし、教材・媒体作りの例を提示して、対象者にわかりやすい指導をする手立てを教授しています。何度も練習を重ねて本番に臨むことで、自信をもって幼児や児童生徒の前で指導するので、満足が得られやすい実習になっています。また、あいさつや返事についても、どの場面でどのように行うかを具体的に指導しています。
- ④ 栄養教諭については、現役の栄養教諭を招聘して、どのように学校で「食に関する指導」を行っているかなどを学生と座談会形式で授業を行ってもらっています。また、給食センター見学と試食会を経験させ、学校給食の実際に触れことで、より身近に学校給食を感じることができると思います。

#### 4 教育の成果

##### ① 学生の理解度

給食管理学での座学は、2年生の後期に行われる給食管理実習（校内実習）で、機器の名称や用途を視覚として理解し、記憶となっていくます。現場で何度も繰り返して復唱しながら学習するため、特に衛生管理について、多くの学生でテストの正答が高いことから、理解が進んでいると考えられます。

##### ② 学生の実践力

給食管理実習Ⅰでは、多くの時間と労力をかけて教材や媒体、指導案

の指導を行う必要がありますが、給食管理実習Ⅱでは、媒体のヒントや少しのアドバイスから、効率が良く学びやすい内容を選択できるようになり、対象者に合った指導法を確立することができるようになりました。返事や挨拶についてきめ細かな指導をしたことで、実習先から「こんなに挨拶ができる実習生も初めてです。」「やる気が伝わってきます。」などと、高評価を得ることができました。

### ③ 国家試験について

2024年7月、2025年1月実施の管理栄養士国家試験模擬試験において、給食経営管理論の結果は、それぞれ18点中平均10.9点、11.5点と全国順位16位と14位でした。これらのことから、給食経営管理に対する苦手意識は少なく、どちらかという得意としている学生が多いことが考えられます。より多くの問題を提供し、お互いに解説をシェアすることで、深く広く知識を習得していると思われま

### ④ 授業評価アンケート

授業科目	回答率	開講時期	総合評価
学校栄養指導論	100.0%	2024年度 前期	4.83
学校食育概論	100.0%	〃	4.80
給食管理学	100.0%	2024年度 前期	4.39
給食経営学	66.7%	2024年度 前期	4.11
給食管理実習ⅠⅡ	86.5%	2023年度 後期	4.52

「臨地実習につながる学びを得ることができた。」「今まで学んできた分野と異なることを学べて新しい発見があった。」「先生がとってもわかりやすく楽しく教えてくださいました。」など、概ね良好でした。一方、「スライドが進むのが早かった。」「わかりやすかったが、もう少しゆっくりでも良い。」といった意見がありました。

- ⑤ 課題研究では、2023年度日本栄養改善学会に学生を筆頭発表者として2題ポスター発表を行った。2024年度は日本栄養改善学会ではポスター1題、東北学校保健学会では口頭発表1題を指導しました。学生たちはそれぞれ良い経験になり、多くの先生方から質問をしていただき貴重な学習の機会となりました。

## 5 教育の改善と今後の目標

授業評価アンケートを活用して、授業を改善していきます。

書くこと、そしてお互いに教えあうことで記憶の定着を図り、より実践的で現場で応用できる知識を身につけることができるように、今後も継続的指導を行っていきます。その際に、進捗状況をしっかり把握し、学生が納得できるようスピードに気を付けながら、指導していきます。

学会等に参加することで、他の先生方から良い刺激を受けることができるので、国家試験のためだけの学習ではなく、深い学びにつながる学習をさせていきます。

栄養教諭関係では、現役の栄養教諭はもちろん健康教育で連携をはかる養護教諭を招聘して、学校の児童生徒の健康をチームとして築いていくための具体的方法について教授いただき、将来の栄養教諭としての自分の姿を描けるような授業を提供します。

地域連携では、虹の丘連合町内会と合同で「防災について」を、学生と共にシリーズで行っているので、今後も続けていけるように様々な方面から考えていきたいと考えています。

臨地実習においては、実習を終えた後に学生が大きく成長し、新たに自信をもって様々な事に取り組めるよう、そして、実習先にも「東北生活文化大学の学生は、実習に真剣に取り組んでいる」と言われるように、細部まで個々人に合わせてしっかりと指導していきます。

これらの目標に向けて、学校栄養職員として働いてきた経験をいかし、自己研鑽に励み教育の質の向上に努め、「食」と「健康」のプロを育てていきたいと思えます。